



2020 年度 昭和大学 I 期

【 講 評 】

大問構成は昨年度より大きく変更され、3問構成となった。大問1が短文空所補充(5択)、大問2・大問3が総合問題であった。昨年度まで独立した大問で出題されていた会話問題は大問1に、整序・正誤・短文完成は大問2・大問3に統合された。大問2の空所補充問題は紛らわしい選択肢が多く、判断に時間を要する。一方で大問2・大問3の内容一致問題は該当箇所の特定が容易で、解答しやすい。難易度の高い問題も散見されるが、概して平易な出題であった。

【 解 答 ・ 解 説 】

1

1. C

word for word「一語一語」、他の選択肢は in so many words「言葉通り・率直に」、in words「言葉で」(in well-chosen words「適切な言葉で」、in plain words「率直な言葉で」など)を押さえる。

2. C

him to run for president とあるから、persuaded が正解となる。本問の用法の他に、persuade O into Ving「OにVするよう説得する」、persuade O out of Ving「OにVしないよう説得する」、いずれも talk で代用可。proceeded は自動詞のため不適。prevented は O from Ving を導くため不適。

3. D

to allow the mind to wander and think about various things「心が(煩惱で)散りぢりに乱れる」に由来する表現。for a while「しばらくの間」、他の選択肢は make up for「埋め合わせる」を押さえる。

4. B

budget deficit「財政赤字」、the city is suffering from とあるから否定的な意味の語が正解と分かる。他の選択肢は account「口座」、deposit「預金」、finance「財政」、fund「資金・基金」。

5. C

主節の助動詞過去形 would より仮定法の可能性を考慮して従属節を見る。動詞が見当たらないので、空所に接続詞・関係詞を入れると文が成立しない(AとEが不適)。また、副詞を入れても名詞 a serious problem の説明がつかない(Dが不適)。to arise より、仮定法未来 if a serious problem were to arise の if が省略された疑問文型倒置 were a serious problem to arise と気づく。なお、仮定法未来には were to と should の2パターンがあるが、本問に should は当てはまらない。

6. D

命令文~, and 「～しなさい, そうすれば」, 命令文~, or / otherwise 「～しなさい, さもなければ」. otherwise は原則副詞だが, この用法のみ接続詞的に用いられる (A と E は文法上・意味上等しいので正解になり得ない). 本問では命令文ではなく one more step 「もう一歩」となっているが, このように名詞で代用するケースは少なくない. would have fallen より仮定法過去完了を意識して直訳すれば「もう一歩, そうすれば階段から落ちていたことだろう」となり, 文意が通る.

7. C

as good as one's word 「必ず約束を守る」. word に「約束」の意味がある.

8. A

前置詞 by には「差」を表す用法がある. 例えば, She is taller than I by two inches. = She is two inches taller than I. 「彼女は私より 2 インチ背が高い」. The youngest candidate won by a nose. 「最年少の候補が鼻の差で (= 僅差で) 勝った」など. 本問も「たった 50 票差で選挙に敗れた」の意.

9. C

I'm sorry that I was late. I over slept this morning. 「遅れてすみません. 寝坊しました」に続く台詞なので I should have called you. 「電話すべきだった (のに, しなかった)」が正解となる. 他の選択肢は must have called 「電話したに違いない」 cannot have called 「電話したはずがない」を押さえる.

10. D

me to enter the room とあるから, make も let も不適 (いずれも目的語の後ろは原形不定詞). forgive 「罪・過失を許す」 permit 「許可する」. 本問は「部屋に入ることを許してくれなかった」であるから「許可」を表す permit が正解となる.

11. A

should the house be left unlocked と疑問文型倒置が起きているため「仮定法 if の省略」「文頭の否定の副詞」「同意表現」の可能性を考える. 本問は「文頭の否定の副詞」. 選択肢で唯一否定語を含む on no account が正解となる.

12. E

two hundred people が主節の主語なので, 接続詞 as long as は不適. また, no more two hundred people も不適 (no more than なら可). as many as 「～もの数の」は可算名詞, as much as 「～もの量の」は不可算名詞に用いる. people は可算名詞のため as much as は不適, as many as two hundred people 「200 人もの人々」が正解となる. so much は副詞 much が形容詞の比較級・最上級の強調にのみ用いられ, two hundred を修飾できないため不適.

13. D

I'd like to say something 「言いたいことがある」に対して Of course 「もちろん」と返しているのが, 相手の発言を促す go ahead 「さあ」「どうぞ」が正解となる. 他の選択肢は let me see 「えっと」 wait for a moment 「ちょっと待って」 come again 「(疑問文で) なんて?」 raise your head 「顔を上げて」.

14. B

難問. agree は「人・意見に同意する」の場合は自動詞だから who agrees Maria's proposal は文法的に不適. 他の選択肢は一見どれを入れても「マリアの提案に賛成の人々」になるので, それぞれの表現の意味の違いを考える. in line with と in accordance with は「決められたものに則る・沿う」という意味合いが強く in accordance with the law / blueprints 「法に従って / 設計図の通りに」, in line with the textbook / our policy 「教科書 / 私たちの方針に沿って」. on the side of は side より「対立している二つの立場の一方」という意味合いが強く on the side of justice 「(悪に対して) 正義の側に」. 本問では「決められたもの」や「対立する立場」が読み取れないため, in favor of 「賛成・支持して」が適切.

15. B

How was your flight? 「フライトはどうだった?」 Very pleasant. Thank you for picking me up. 「とても楽しかった. 迎えに来てくれてありがとう。」に続く台詞なので, 感謝に対する返答 No problem. 「とんでもない。」が正解となる. 他の選択肢は I'm glad to hear that 「それが聞いて嬉しい」「そう言ってもらえて嬉しい」(フライトに招待した, などの文脈なら適切だが本問は迎えに来ただけなので不適) Quite a bit 「かなり」 I'd love to 「そうしたい」(to 以下に pick you up を補うことになるが, 文意が成立しない) Perfect 「完璧」.

2

1.

(ア) ①

日本人の若者の幸福感が低いことについて, 空所直前で particularly worrying 「特に気がかり」とあり, 直後では the figures for 2014 gave suicide as the leading cause of death among Japan's 10- to 19-year-olds 「2014年の数値によると自殺が10代の主たる死因である」と述べている. 空所直後の内容は筆者が「特に気がかり」と考える理由だから, given (that) SV 「SV ということを考慮すれば」が正解となる. providing/supposing (that) SV も類似の表現であるが, これは「もし SV とすれば」で条件を表すので不適. また, including は直前の内容を直後で具体化する表現であり, 本問の論理展開と合わない.

(イ) ④

空所直後の前置詞が of であるから, regardless of A 「A と関係なく」と independent of A 「A から独立の」以外の選択肢は不適 (irrelevant to A 「A と無関係の」 indispensable to / for A 「A に不可欠の」 reliable は of と共には用いない). 空所直前の文構造は the level of educational achievement, the amount of time and the frequency of testing が S, are が V である. regardless を入れると空所直前の all が C, regardless of well-being 「幸福に関係なく」が副詞句となり, 意味は「学業成績のレベル, 時間の量, そしてテストの頻度は幸福に関係なく全てである」. independent を入れると all が副詞「全て」, independent が C となり, 意味は「学業成績のレベル, 時間の量, そしてテストの頻度は全て幸福から独立している (= とは無関係である)」. 次の文で In other words, none of these factors contribute to low well-being 「言い換えると, これらの要因は低い幸福感とは関係ない」と述べられているから, 文章の論理展開 (= 言い換え) を踏まえると後者の independent が正解となる.

(ウ) ②

空所直前の等位接続詞 and によって there are good reasons to think that additional factors are in play 「追加の要因が作用している」と考える正当な理由がある」の文と the Generation Z report (ウ) the context of these OECD findings 「Z世代に関する報告書が OECD の調査結果の文脈(ウ)」の文が並列。よって「the Generation Z report が追加の要因を説明する」という文になる選択肢が正解(この時点で lose track of A 「Aを見失う・忘れる」 keep up with A 「Aに遅れない」は不適、また make up for 「埋め合わせる」は目的語に「不足・過失」など否定的表現が来るので不適)。この部分が there is 構文で提示される新情報であり、次の段落で The report measured youth satisfaction on a wide range of metrics 「その報告書(=Z世代に関する報告書)は幅広い指標で若者の満足度を測った」と具体化。これは「従来の調査・研究とは異なる様々な指標に目を向けた」ということであり、throws light on the context 「文脈に光を当てる・文脈を明らかにする」が正解となる。一見 take account of the context 「文脈を考慮する」も入るが、「既存の調査結果の文脈を考慮する」だと旧情報の再考に終始する。これでは「幅広い指標」を導入する必然性がないため、不適。

(エ) ②

空所直前の等位接続詞 and によって The report measured youth satisfaction on a wide range of metrics, including happiness with life, mental well-being and emotional well-being 「その報告書(=Z世代に関する報告書)は人生のハピネス・精神のウェルビーイング・感情のウェルビーイングという幅広い指標で若者の満足度を測った」の文と(エ) found that young people in four countries — China, India, Nigeria and Indonesia — placed consistently at or near the top of the satisfaction scale for all three areas. 「4つの国々——中国・インド・ナイジェリア・インドネシア——の若者は3分野(=3つの指標)全ての満足度で一貫して上位を占めていることが(エ)分かった。」の文が並列(この時点で probably 「おそらく」 deliberately 「故意に」は不適)。unexpectedly 「思いがけず」 obviously 「明らかに」 importantly 「重大にも」は一見どれを入れても文意が成立するが、満足度で上位を占める4つの国々が「発展途上国」(中国もアメリカやフランスに比べたら「発展途上国」)であり、一般的に happiness や well-being は「発展途上国」より「先進国」で得られるものであるため、「一般的な認識に反して思いがけず」を意味する unexpectedly が正解となる。

(オ) ⑤

空所を含む文 it was also clear that the top countries for well-being tended to be (オ) economies. は「ウェルビーイングで上位を占める国々は(オ)経済であることも明らかだった」の意。次の文で It may be that perceived opportunities for expansion has a positive impact on well-being. 「おそらく拡大の機会がウェルビーイングに肯定的な影響を及ぼしている。」とあるので、「拡大」と合わない closed economies 「閉鎖経済」 consumer 「消費者経済」 declining economies 「衰退する経済」は不適。さらに meanwhile 「一方で」と続くので、in advanced economies like Japan's 「日本経済のような先進経済において」の部分と対比の論理関係になる emerging economies 「新興経済」が正解となる。centralized 「集中化した」。

2.5 番目 any / 8 番目 apart

並べ替えた文は they were unhappy than any other country apart from South Korea. 空所を含む文は more Japanese young people said []. 選択肢に動詞 were があるため、said の直後に that 省略と気づく。were の主語は複数名詞 they, 補語は unhappy で確定。比較級の文で any と other があるため、than any other 単数名詞で組む。選択肢の単数名詞は country と South Korea であるが、South Korea は文意が成立しないので than any other country とする。また、残りの選択肢から前置詞 apart from A 「Aは別として」に気づき、apart from South Korea とする。

3. ④

picture は基本的な「絵画」「写真」の他「状況・事態」の意味を持つ。下線部を含む文 The picture is complex and the answers not obvious. は「状況は複雑で解決策も明らかでない。」の意。

4. optimistic

pessimistic 「悲観的な」の対義語は optimistic 「楽観的な」。それぞれ optimism 「楽観主義」 pessimism 「悲観主義」でも頻出。

5. C

reducible の解釈が重要。prescriptive 「規範的な」は知らなくても解答可能。下線部 Happiness may not be reducible to a list of prescriptive conditions. は「幸福は prescriptive な条件のリストに reducible ではないかもしれない」の意。reducible は reduce の形容詞であるが、reduce は基本的な「減らす」の他 reduce A to B 「A を B (良くない状態・簡単な形) にする」の用法を持つ。例えば、The boy was reduced to tears / silence. 「少年は泣かされた / 黙らせられた」 She reduced a statement to its simplest form. 「彼女は陳述を最も簡単な形に修正した」。本問の reducible は「削減できる」ではなく「簡略化・単純化できる」の意。

6. B・E

A

第1段落4行目の only South Korea and Turkish teens rated their life satisfaction lower than Japanese young people 「韓国とトルコの10代の若者だけが生活満足度を日本の若者よりも低く評価した」という記述と一致しない。

B

第2段落3行目のコロン以下の記述と一致する。

C

第4段落4行目の the figures for 2014 gave suicide as the leading cause of death among Japan's 10- to 19-year-olds 「2014年の数値によると自殺が10代の主たる死因である」という記述と一致しない。

D

第8段落3行目の Victimization of bullying is also less frequently reported by students who said that they receive parental support when facing difficulties at school. 「いじめの被害者経験も、学校で困難に直面したときに親の支援を受けていると話した生徒から報告される頻度はより低い。」という記述と一致しない。

E

第8段落5行目の In addition 以下の記述と一致する。

F

第12段落1~4行目の only China, Indonesia, India and Nigeria thought overall that the world was not becoming a worse place. 「全体として中国・インドネシア・インド・ナイジェリアだけが世界はより悪い場所にはなっていないと考

えた」 / It may be that perceived opportunities for expansion has a positive impact on well-being. 「おそらく拡大の機会がウェルビーイングに肯定的な影響を及ぼしている。」という記述と一致しない。選択肢の記述にある Japan はこの4つの国々と meanwhile で対比されている。

3

1. 数を数えずにおおよその量を推測したり比較したりする、生まれつき備わった能力。(38字)

下線部を含む文 This capability, referred to as the approximate number system (ANS), is normally present in infants and improves with age. は「概数システム (ANS) と称されるこの能力は、通常は幼児に備わっており、年齢と共に発達する」の意。refer to A as B 「A を B と称する」は $A=B$ を示すため、下線部 the approximate number system (ANS) = this capability と分かる。次に this capability の指示内容を特定する。直前の文に their innate ability to estimate and compare quantities without counting とあるので、これを和訳する。ただし、下線部自体に approximate 「おおよその」とあるので、これも解答に組み込む。

2. B

in a fraction of a second 「1秒の何分の1で」。ただし、この表現を知らなくても解答可能。下線部を含む文 Each screen was visible for only a () of a second, so the children didn't have time to count the dots. は「それぞれの画面は1秒の()の間だけ見えたので、子どもたちは点を数える時間がなかった」の意。for only a () of a second で「ほんのわずかな時間」を意味する選択肢が正解。timing 「タイミング」以外の選択肢は全て「部分」の意であるが、fraction のみ「ほんの少し」の意味合いを含む。fraction より同じ語源の fragment 「断片・欠片」を思い出すことができれば、他の選択肢に比べて「細かい・小さい部分」を表すと推測できる。

3. (a) more (b) than

与えられた日本語訳に「数学の成績が良かったから二番目に悪い子どもたちは、より成績の良いグループの子どもたちと比べて」とあるので、比較を念頭に置いて下線部を見る。すると、(a)の直前に no があるので、no more / no less の構文と気づく。(b)は than で確定。英文 no (a) likely to have poor ANS scores 「ANS のスコアが乏しい可能性が (a)」に対応する日本語訳は「スコアが低いわけではなかった」であるから、no (a) likely で「可能性がない」の意味にするために more を入れる。

4.

ア B

rely on A 「A に頼る」。

イ E

consist of A 「A から構成される」。同義の comprise A / be composed of A / be made up of A も頻出。

ウ G

classify A into B 「A を B に分類する」。

エ J

lead to A 「Aに繋がる」「結果としてAになる」.

オ at

at risk 「危機に瀕している」. 本問のみ動詞ではなく名詞 risk との関係で前置詞を選ぶ.

5. D・E

A

第2段落4行目の The causes of dyscalculia, however, remain poorly understood. 「しかしながら dyscalculia の原因は、まだ充分には理解されていない」という記述と一致しない. dyscalculia は第2段落1行目に math learning disability, also known as dyscalculia 「dyscalculia としても知られる数学の学習障害」と説明がある.

B

第2段落3行目の About 10% of school-age children have persistent and significant difficulties with math, while many more fail to reach basic levels of mathematics achievement. 「学齢の子どもたちの約1割が数学について持続的で重大な困難を抱える一方で、より多くの子どもたちが数学の学力に関して基本的な水準に到達できていない。」という記述と一致しない.

C

第3段落4行目の We rely on ANS skills in daily life 「私たちは日常生活でANSのスキルに頼っている」という記述と一致しない.

D

第3段落3~4行目の記述と一致する.

E

第6段落5~6行目の記述と一致する.

F

第7段落3行目の Our findings suggest, however, that children have difficulty with math for different reasons. 「しかし、私たちの調査結果は、子どもたちが様々な理由で数学に困難を抱えていることを示している。」および第8段落1行目の Research to identify these reasons may now lead to new ways of identifying children at risk and tailoring teaching methods to help them. 「これらの理由(=数学に困難を抱える理由)を特定する研究によって、子どもたちを救うために、危機に瀕している子を特定してその子に指導法を合わせるという新たな方法が、今に生まれるだろう。」という記述と一致しない.

以上